

今の世の中
『もってえねえー』
ことがいっぱいじゃの～

じゃあ、何が
『もったいない』
かいっしょに
考えよう！

ねえ、おじいちゃん
何がそんなに
『もったいない』の～



+

リスペクト
Respect

||

もったいない

もったいないの心
『もったいない』の言葉から何を感じますか？

Step 1

もったいない
を考える

世界に広がる『もったいない』

近ごろ、あまり使われなくなった『もったいない』という日本語が、世界中に広がっています。

ケニア出身のワンガリ・マタライさんが地球環境を守る世界共通のことばとして『MOTTAINAI』を提唱したからです。環境保護活動家である彼女は、砂漠化が進むアフリカに緑を増やす「グリーンベルト運動」が認められ、ノーベル平和賞を受賞しました。

この運動の理念として、マタライさんは消費削減(リデュース)、再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)という3つのRを掲げました。この3Rをたったひとりで表せるだけでなく、かけがえのない地球資源に対する尊敬の念(リスペクト)が込められている『もったいない』という美しい日本語を、世界へ広めていきます。モットナイナイシャツや小池百合子元環境大臣のモットナイナイふるしきなどでご存知のかたも多いかと思えます。

いま家庭から出るごみの6割が包装ごみと呼ばれる使いすての紙袋やレジ袋です。このレジ袋をふるしきやマイバッグに換えることによりごみを減らすことができます。『もったいない』の心の積み重ねが大切な地球資源の保護にもつながります。

『もったいない』の心の先に

そこで、『もったいない』の語源をひも解いてみると、物の本来あるべき姿がなくなることを惜しみ、嘆く気持ちを表しています。日本人は昔から、物を無駄にしまったら、もったないと残念に思い、人から物をもらったらありがたくて、もったいないと思ってきました。このもったいないとありがたいにはほとんど同じ意味があるようです。

また昔の日本人は生き物だけでなく長く使われてきた道具にも魂が宿ると言い伝えがあります。着る物や住む家、たとえお茶碗一個でも大切に使わないともったいないと考えてきました。

かつての日本人が持っていた自然や人や生き物、すべての物に対する敬意や感謝の心が詰まった『もったいない』の心が、現代では便利さ快適さを求めすぎるあまり、見失われがちになっていないのでしょうか。

今回は私たちの身近にある町内のさまざま『もったいない』の心をテーマに取材しました。地球規模の温暖化などによる環境問題や、さまざまな社会問題が叫ばれる現代に、先人たちから受け継がれてきた日本特有の『もったいない』の心の先に、いったい何が見えてくるのか、いっしょに考えてみましょう。